

松蔭 校長室だより

2025 年 10 月 1 日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識においてひとつのものとなり、
成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。(エフェソの信徒への手紙 4:13)

顔つきが変わった

先日、思想家・仏文学者の内田樹(うちだたつる)氏による、学校教育の未来をテーマとする講演会に参加しました。氏はしばしば「刺激的」なレトリックで語ります。今回の講演では「成熟とは別人になること」「別人になったことを自覚できるようにすることが教育であり、学校はその場である」といった言葉が大変印象的でした。

夏休み中には、関西空港や伊丹空港に行き、ニュージーランド英語研修、韓国の姉妹校での異文化研修から帰国する生徒たちを出迎えました。言葉を交わす生徒たちの顔つきを見て「おやっ?!!」と思いました。やや疲れた様子ながらも家族との再会に笑顔がこぼれる一方で、親元を離れて海外でのプログラムを成し遂げた安堵と、芽生えつつある自信のようなものがない交ぜになった表情が皆一様に見受けられたからです。事後のアンケートでも保護者の方から「研修に参加してひと回り成長して帰国したように思う」とコメントをいただきました。中高生の心は柔らかくしなやかです。「この子にこんな面があったんだ」「こんなことを言うようになった」と感じれば、「別人」となる成長、成熟のステップではないでしょうか。

昨年の校長室だより10月1日号に「食べ物に旬があるように」「見えない力を多様な物差しで育む」と題し、教育や子育てにも「食べ物の旬」のような「成長の旬」があることを記しました。(学校ホームページのバックナンバーからご覧いただけます) 10月は、修学旅行、校外学習や英語研修など各学年・コース毎に様々なプログラムが予定されています。また、来年度からの新しい海外研修プログラムとして、オーストラリアの聖公会系学校での語学研修や米国ワシントン州のチャールズライトアカデミー(CWA)との交換ターム留学制度(生徒2人ずつの3~4か月の交換留学)も計画中です。松蔭の多様なプログラムを体験することで生徒たちが刺激を受け、意欲的に生きる姿勢を自分のものにしていただきたいと思います。

「啐啄同時(そったくどうじ)」の言葉があります。「啐啄」とは、鳥のヒナが卵から産まれ出ようと中から卵の殻をつついた時(「啐」)、その音を聞いた親鳥が殻の外から卵をつついて破る手助けをすること(「啄」)です。2つが同時に行われてヒナが順調に誕生するのです。子どもが一歩前進しようとするとき、周りの大人は、彼(彼女)を勇気づけ励まして、そっと背中を押してやりましょう。大人の希望や願い、感情や不安はいったん傍に置いておいて、急がず遅れず適切なタイミングで「つついて」やりましょう。

次回「保護者おしゃべり会」

「思春期の子育ては、ある意味で『親の覚悟』が必要」 相談室カウンセラーの言葉です。子どもの学年を越え、親同士でざっばらんに語り合おうという趣旨の会、「保護者おしゃべり会」では、今年度テーマを「思春期のはなしをしましょう」としました。次回は10月18日(土)午前の予定です。後日お申込みようのClassiアンケートを配信します。

衣替えは10月14日(月)予定

温暖化の影響で10月に入っても気温が高く、裏地のついた冬服では過ごしにくいいため、校則に定められた衣替え日(10月1日)を例年遅らせています。今年は平年よりもさらに高めの気温が予測されており、本日時点で衣替えは10月14日を予定しています。予報によっては、さらに遅らせる可能性があります。日付が決定しましたらお伝えしますので、ご支度ください。なお、来年4月から希望者が着用する女子用スラックスタイプ制服や制定リュックについて、希望の有無に関する事前アンケート調査を2学期末に実施する予定です。実際の購入お申し込みは3学期ですが、事前調査としてご協力いただきますようお願いいたします。